



我孫子市
Abiko city

令和 8 年 7 月 28 日
定例記者会見資料

自殺対策啓発ショート動画「よりそうアビビ」を作成

近年、子どもの自殺者数は増加傾向が続いており、全国での令和7年の小中高生の年間の自殺者数が過去最多の538人となるなど、極めて憂慮すべき事態が生じています。国では令和8年4月1日に改正自殺対策基本法を施行し、子どもの自殺対策を強化し、これまで以上に取り組んでいくこととしています。

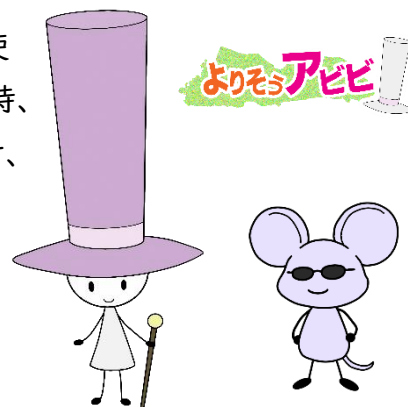
市では、子どもや若者世代を中心に利用者が多く、気軽に閲覧できる構成のショート動画を作成しました。このストーリーを通じて1人でも多くの子どもたちが生きる力を得られることを期待しています。

よりそうアビビ

我孫子市民で市内を散歩するのが趣味の「アビビ」（魔法使い）と「タロウ」（ネズミ）のコンビが手賀沼公園に差し掛かった時、悩みを抱えている様子の「子ども」や「親」に気づいて声をかけ、話を聞いて寄り添っていくストーリーです。

配信開始日：7月28日（火）午後 3 時より毎週1話ずつ公開
配信方法：我孫子市公式 YouTube チャンネルにて配信予定
※夏休み明けは子どもの自殺が突出して多くなることから、

夏休み中に全話公開する予定です。



▲「アビビ」（左）と「タロウ」（右）

ストーリー概要（詳細別紙）

- 第1話「明日なんて来なくていいのに」
- 第2話「SNS 見るたびに落ち込む」
- 第3話「休みたいけど休めない」
- 第4話「どこにも居場所がない」
- 第5話「私、親失格かも」



【問い合わせ】

我孫子市 健康福祉部 社会福祉課

担当：山口・高橋

電話：04-7185-1664（直通）

メール：fukushikeikaku@city.abiko.chiba.jp

◎動画作成に悠々ホルン氏が協力

悩みを抱えた子ども時代を過ごし、2度の自殺未遂を経験、現在は悩みを抱えた方の力になるため、歌や講演会など様々な活動をされている悠々ホルン氏に協力を依頼し、市職員と意見を交換しながら動画を作成しました。悩みを抱えた本人としての気持ちと感じ方を知り、1万通を超える子どもや保護者たちからの切実な声を受け、支える側と支えられる側の気持ちの両方を理解されている同氏に協力を依頼することで、しっかりと心に届くものができると考えました。

悠々ホルン氏 プロフィール

我孫子市出身 シンガーソングライター。小・中学生の時に2度の自殺未遂を経験。自身の経験に基づいて作られた楽曲に共感した青少年を中心に、手紙やメールにて1万通を超える応援・相談メッセージが寄せられている。その内容は、家庭不和、いじめ、虐待、不登校、自傷行為、自殺願望など多岐にわたる。生きづらさを抱える子どもたちの声を音楽や動画にして代弁するほか、法務省、厚生労働省、学校、児童相談所など各方面から声がかかり講演活動を行っている。



▲悠々ホルン氏

◎「よりそうアビビ」ストーリー（詳細）

第1話「明日なんて来なくていいのに」

心のつらさが体調にも影響を与えている様子の子どもの登場します。

第2話「SNS 見るたびに落ち込む」

SNS でみんなのキラキラした投稿を見ると子どもは落ち込んでしまいます。

第3話「休みたいけど休めない」

学校に行くのがつらすぎて生きていたくない、とすら思う子ども。でも親はわかってくれません。



第4話「どこにも居場所がない」

子どもは家庭が複雑でどこにも居場所がないと感じています。

第5話「私、親失格かも」

親もまたさまざまな悩みを抱えていました。アビビたちに悩みや子どもへの思いを打ち明けます。親子の仲にちょっとした変化が訪れます。

よ
か
っ
た
ら
話
聞
く
よ

2026.7.28 15:00

YouTube

我孫子市チャンネルにて
ショート動画 配信開始

よりそうアビビ

(全5話)



あらすじ

我孫子市民の「アビビ」と「タロウ」は市内を散歩するのが趣味です。

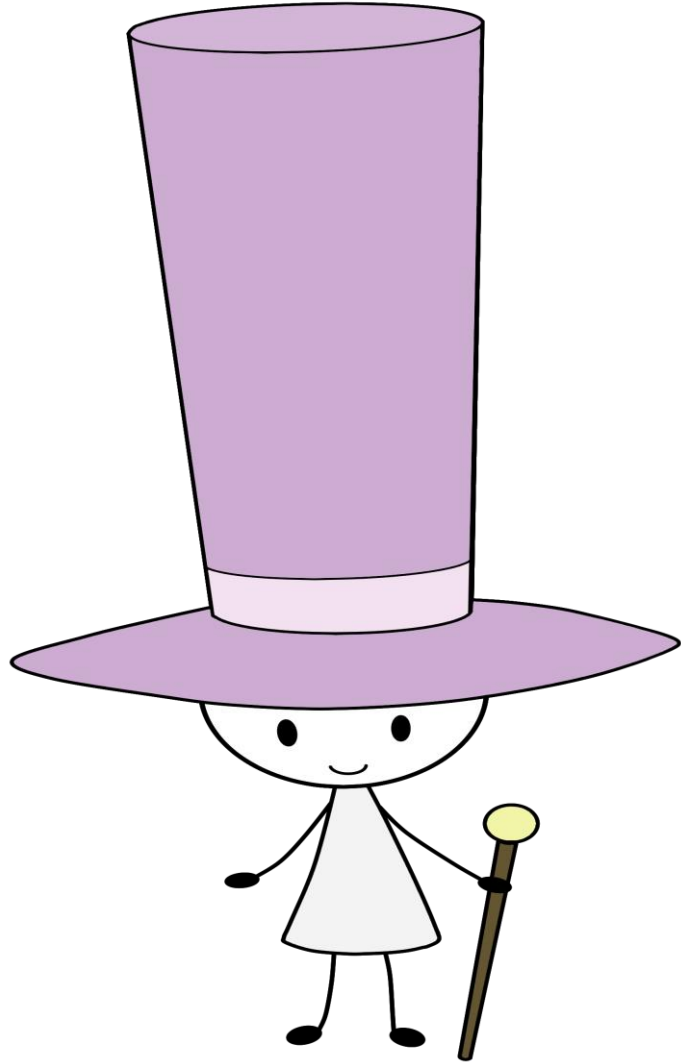
ある日、2人が手賀沼公園を散歩していると、落ち込んだ様子の子どもに出会います。

子どもの抱えているつらさに「アビビ」と「タロウ」は耳を傾けます。

誰にも言えずにいた悩みを話せたことで、3人につながりができていきます。

そして子どもの「親」も仕事や育児に悩み、やっぱり手賀沼公園にやって来て「アビビ」と「タロウ」と出会います。

話を聞いてもらえたことで親子の関係にちょっとだけ変化があらわれます。



「アビビ」

生まれも育ちも我孫子の我孫子市民。

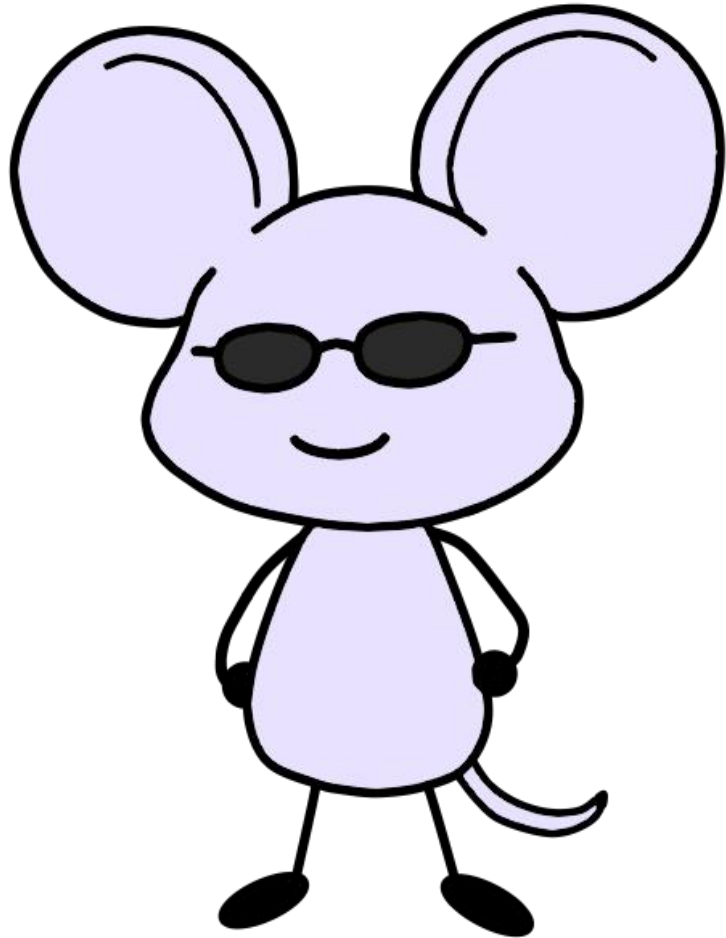
おとなしい性格で、友達のタロウと一緒に散歩をするのが日課。

特にお気に入りの場所は、手賀沼公園。散歩中に、つらそうにしている人がいたら声をかける。

そんなアビビも深く悩んだ過去を持つ。

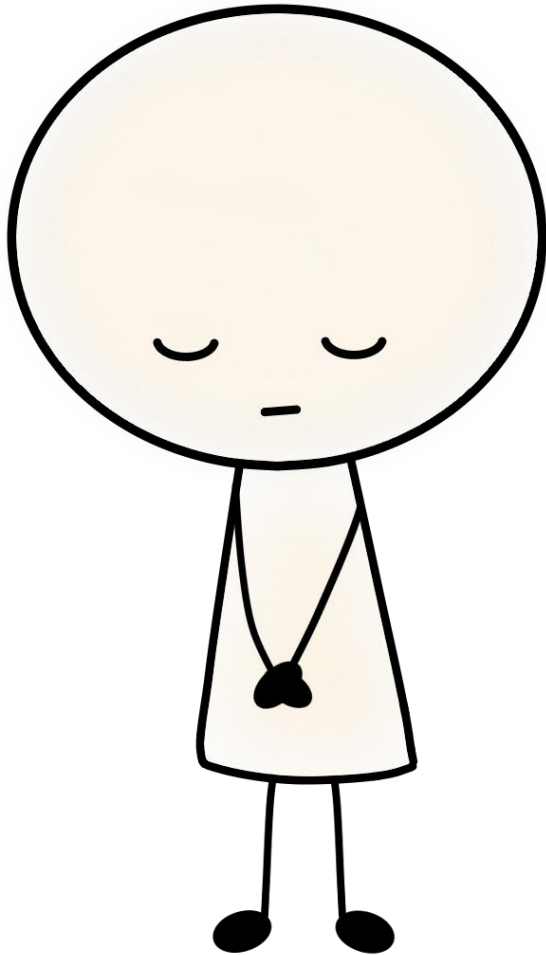
トレードマークの帽子の中には、何か秘密があるらしい。

「タロウ」



アビビと散歩に出かける明るいお調子者。
でもアビビと出会う以前は、正反対の性格で外を出歩くことも難しかった。
サングラスはファッションとしてかけているのではなく、人の視線を避けるため。
でもアビビと一緒になら怖くない。

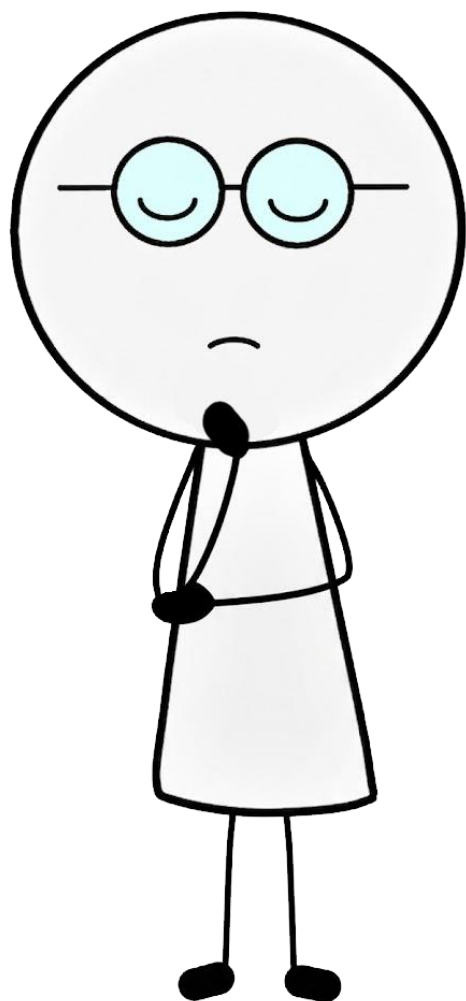
「子ども」



ずっとひとりで抱えてきた悩みを、散歩中のアビビとタロウに声をかけてもらったことをキッカケに打ち明けることになる。

学校にも家にも安心できる居場所がないと感じている。

生きることがつらくなるほど追いつめられていたが、アビビやタロウとの出会いをキッカケに、少しずつ元気を取り戻す。



「親」

「子ども」の親。

自身も幼い頃に家族関係で悩んだ経験を持つ。

現在は子育て、家庭、仕事の悩みを抱えながら日々を過ごしている。

我が子との関係に悩んでいたが、アビビやタロウとの出会いをキッカケに、子どもとの向き合い方に変化が芽生え始める。

声の出演

「アビビ」・・・市職員A

「タロウ」・・・市職員B

「子ども」・・・人権擁護委員

「親」・・・市職員C

作者

悠々ホルン(ゆうゆうほるん)さん

我孫子市出身 シンガーソングライター。

小・中学生の時に2度の自殺未遂を経験。

自身の経験に基づいて作られた楽曲に共感した青少年を中心に
手紙やメールにて全国から1万通を超える応援・相談メッセージが寄せられている。
その内容は家庭不和、いじめ、虐待、不登校、自傷行為、自殺願望など多岐にわたる。

生きづらさを抱える子どもたちの声を音楽や動画にして代弁するほか、
法務省、厚生労働省、学校、児童相談所など各方面から声がかかり講演活動を行っている。